

自治体の課題、現状

県内には、都市部と中山間地域が混在しているため、県が一律の方針等を示して地域移行等を推進することが困難である。

令和5年度に行った市町の取組状況に係るアンケートでは、平日を含む形での地域移行には課題を感じている市町が多いことや地域移行・地域連携を組み合わせて取組を進めていく方向性で考えている市町が多いことがわかった。また、半数の市町が協議会等を設置し、学校部活動の今後の在り方について検討が進められていることがわかってきたため、実証事業等を活用し最適な形での移行に向けた支援を市町に行っていく。

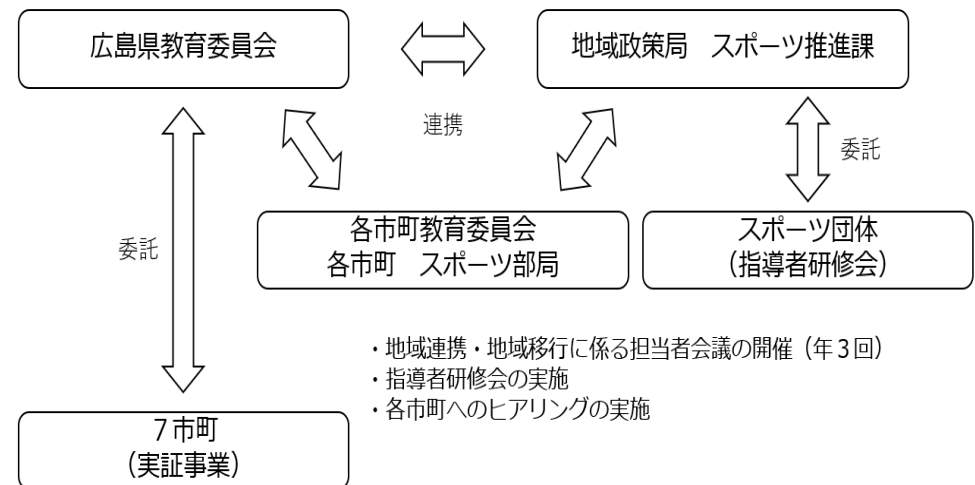
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	227校	全生徒数	65,476人
域内の部活動数	2,630部	実施した地域クラブ数	0クラブ
全体の指導者数	0人	全体の運営スタッフ数	0人
主な運営団体	-		
主な種目	-		
平均的な活動回数	-	年間平均参加生徒実数	-
参加会費	-	主な活動場所	-

地域移行関連の取組、成果

- ・担当者会議と県外視察による**先進事例の紹介**
より多くの市町にとって参考となるよう、**実態（人口規模や地理的条件）の異なる複数の自治体**に協力をいただいた。
- ・市町ヒアリングによる**情報の把握と共有**
各市町の実態を把握するだけでなく、ヒアリング内容について、**県内の全市町で共有**できるようにした。
- ・**指導者の質の保証**に向けた指導者研修会の実施
ジュニア期の競技者に指導をする者が知っておくべき内容を、実技を交えながら研修した。また、より多くの方が参加することができるよう、日程は休日に設定し、広島と福山の2会場で実施した。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・人口減少等の地域全体の課題は、特に団体種目において合同チームを組まなければ大会に出場できない競技種目が増加している。
- ・地域移行の取組の現状は、運営組織等を構築し、指導員を確保することや保護者への受益者負担への理解等を進める取組を進めているところがある。
- ・地域移行を進める上での課題は、スポーツ指導員の確保や質の高い指導力が求められる。指導員を確保し、安定して指導員を派遣することが必要である。

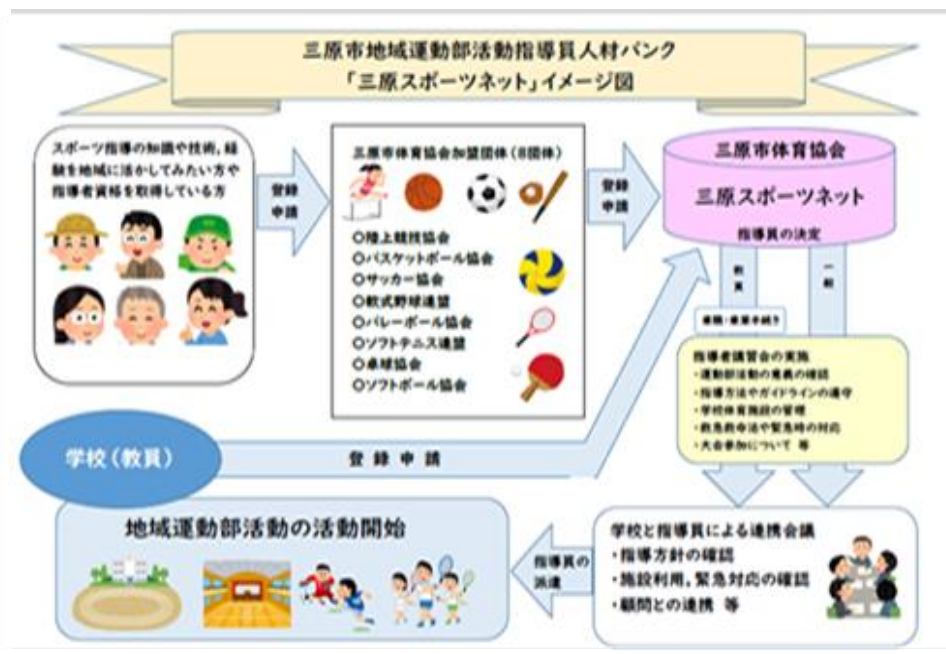
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	10校	全生徒数	2,025人
域内の部活動数	81部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	5人
主な運営団体	三原市教育委員会		
主な種目	バレーボール、陸上競技、卓球		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2人/クラブ 2年：4人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	800円/年	主な活動場所	拠点校の中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・成果は、その競技についてもっと技能を高めたいと考えている市内の中学生が集まり、切磋琢磨する機会を設けることができたこと。
- それに加えて、中学校にはない種目の生徒の活動場所を提供することができたこと。地域展開への意見交換会を複数回行い、方向性等を協議する検討会を立ち上げられた。
- ・課題は、多くの参加者が、中学校で所属している部活動と同じ種目を選択しており、様々なスポーツを楽しみたいというニーズに応えられなかったこと。活動場所までの距離がある生徒の参加が少ない傾向にあること等。

運営体制図



自治体の課題、現状

- 教職員を対象に行った部活動に関するアンケート結果より、希望していない部活動の顧問をしている教職員は42%いる。また、休日の部活動の指導について、全体の51%の教職員が「指導したくない」「できれば指導したくない」と回答した。
- 課題
 - ① 事故対応等の責任も担える指導者数の確保
 - ② 安全管理体制の構築
 - ③ 活動日程・場所の調整などによる、学校の事務負担の増加

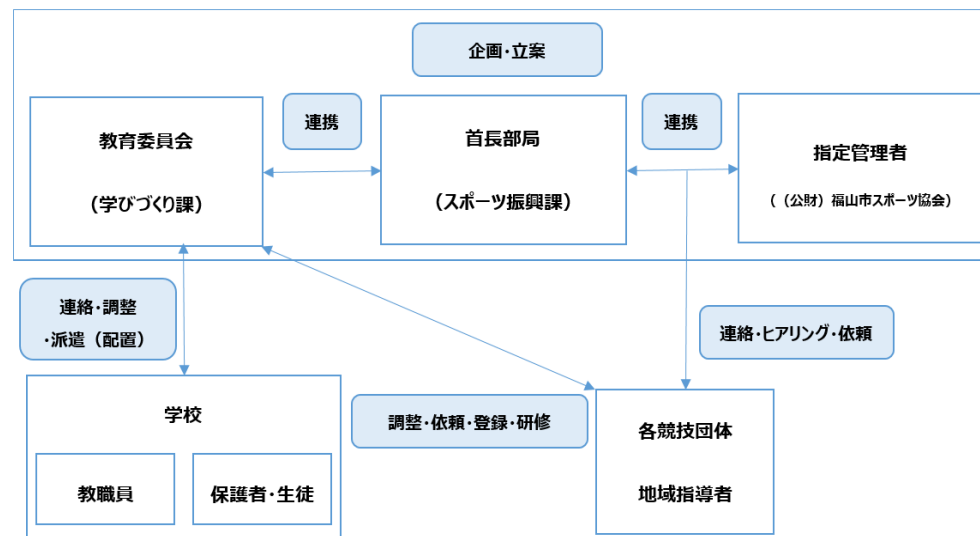
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	32校	全生徒数	11,377人
域内の部活動数	377部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	0人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ 民間事業者		
主な種目	ソフトテニス、バドミントン、卓球		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2.8人/クラブ 2年：115人/クラブ 1年：8.5人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	各中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・ 学校の指導者に関するニーズを把握し、競技団体等と連携しながら指導者の確保と配置
- ・ 教育委員会が直接競技団体や地域指導者と連携を取り、地域移行の事業について説明し、指導を依頼
- ・ 市職員等の活用
- 成果
 - ① 学校のニーズを把握し、適宜競技団体と連携して、指導者を派遣した。
 - ② 市職員や県職員を指導者として配置した。

運営体制図



自治体の課題、現状

・児童生徒数の減少による活動の制限

市の人口減少とともに、府中市立学校の児童生徒数も減少傾向にあり、令和6年度の2,223人に対し、令和12年度では1,619人にまで減少する見込みである。生徒数の減少に伴い、各学校の部活動の数や活動が限定されつつある。

・中山間地域における指導者の確保や地理的な困難さ

多くの種目の指導者の確保が難しく、地域展開に係る取組みが停滞している。また、学校間の距離があり、保護者に送迎等の負担がかかる。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	4校	全生徒数	775人
域内の部活動数	36部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	府中市教育委員会		
主な種目	サッカー、ソフトテニス		
平均的な活動回数	4回/月(サッカー) 2回/月(ソフトテニス)	年間平均参加生徒実数	3年:13人/クラブ 2年:34人/クラブ 1年:31人/クラブ
参加会費	1,000円/月	主な活動場所	第一中学校他

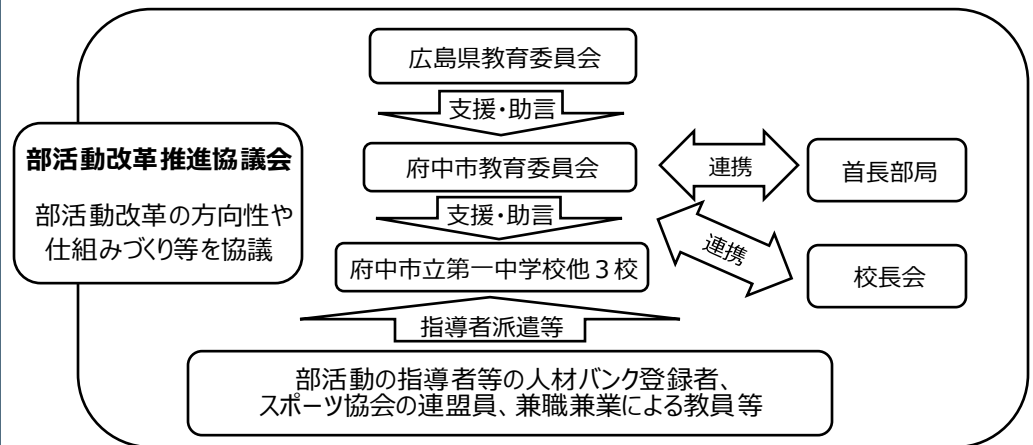
地域移行関連の取組、成果

・部活動改革推進協議会で協議の上、**府中市地域クラブの組織図、全体像、理念等を共有**し、来年度以降の取組みにつなげることができた。

・中山間地域における指導者の確保や地理的な困難さに対し、**1つの団体等に受け皿としてお願いするのではなく**、部活動の指導者等の人材バンク登録者やスポーツ協会の連盟員、兼職兼業による教員等を指導者として派遣し、ソフトテニス部の地域展開を試験的に実施することができた。

・ソフトテニス部の地域クラブ活動において、指導者の調整、顧問の先生方との連携、実績簿の整理、活動場所の確保、参加生徒の出欠確認及び電話連絡、怪我や緊急時の対応など、**コーディネーターの役割**として位置付けることができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

三次市内の中学校は、12校中8校が全校生徒数100人未満で、そのうち7校が50人未満の小規模校である。生徒数減少が進む中、部員数が恒常的に不足しており、休部や廃部となる部活動がみられる。特に団体種目は、単独校での日常の練習や大会参加にも苦慮しており、学校間の距離が遠いにもかかわらず、週末を中心に合同の練習を行い、大会に参加している。

また、生徒数が減少している一方、児童生徒の活動ニーズは多様傾向で、市内の小学校5・6年生へのアンケートでは、現在学校部活動にはないものも含め20を超える希望種目等が挙げられ、中学校単位でそれに応えることは困難な状況である。

本年度は、モデル地域での取組や地域・関係団体との連携を推進する中で新たに生じた課題の解決に向けた検討委員会で協議し、令和5年3月の意見提言に追加する形で2回目の意見提言を受け、令和9年4月からの休日の地域展開開始の明記を含む「三次市部活動の地域展開に係る基本方針（改訂版）」策定した。

甲奴・三和両地域でのモデル事業の取組も少しずつではあるが進んでおり、甲奴地域では軟式野球のクラブチームが設立され活動を開始した。三和地域では児童生徒のニーズに応える活動づくりを目標に小中学生へのアンケートを行い、開設種目の検討を行っている。

今後の課題としては、①モデル地域以外の地域や種目の具体的な動きの構築、②地域展開後の活動を運営する組織の設立が挙げられる。

その解決に向けて、庁内推進体制のさらなる整備・強化が必要であり、それを基盤にして、コーディネーターを今以上に有効活用し、地域、関係団体等との連携をより密にした取組を展開することが欠かせない。

地域移行関連の取組、成果

・モデル地域における取組

軟式野球のクラブチームの設立、児童生徒のニーズに応える種目開設に向けた動きなど、少しずつではあるが地域での活動を始めることができた。初めての取組であり、動けば動くだけ課題も生じたが、その都度運営主体での協議、合意形成に委ねる形で、先を急ぎすぎないように心掛けた。

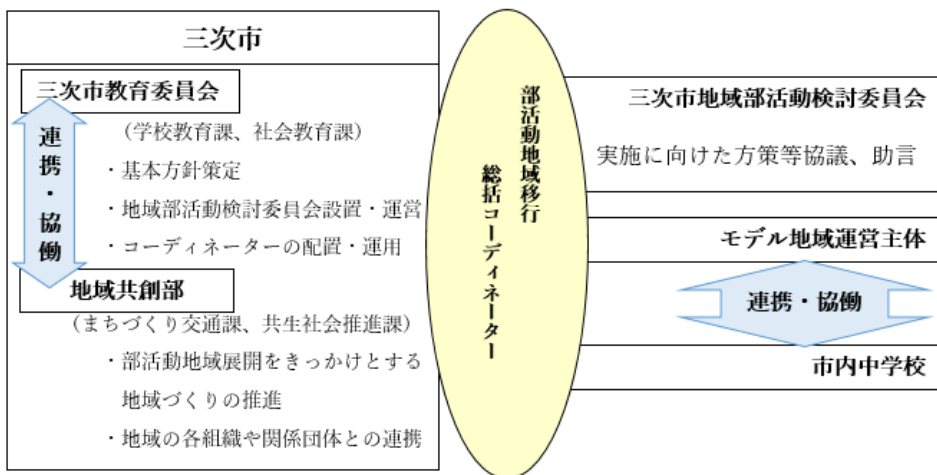
・他の種目等への取組

関係種目の競技団体や連盟・協会関係者との「受け皿・指導者」確保を中心にした協議を行うことができた。スポーツ少年団やスポーツ教室等、現在ある活動や団体に受け皿や指導の要請を中心に連携を進めている。

・地域部活動検討委員会の取組

関係団体や地域との関係の中で生じた課題についての協議を中心に取り組み、2回目の意見提言を取りまとめ、それを踏まえた「三次市部活動の地域展開に係る基本方針（改訂版）」を策定した。その中では、学校の部活動を単純に地域に移すのではなく、この取組を通して子どもから大人までの持続可能なスポーツ活動環境づくり、さらにはそれを通じた地域づくりの視点を重視している。

運営体制図



地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	125人
域内の部活動数	13部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	3人	全体の運営スタッフ数	5人
運営団体	NPO法人		
主な種目	軟式野球		
平均的な活動回数	8回/月	年間平均参加生徒実数	2年：6人 1年：4人
参加会費	18,000円/年	主な活動場所	三次市立甲奴中学校

自治体の課題、現状

・地域全体の課題

安芸高田市は人口26,536人の市で、中学生は590人である。部活動数や1部活あたりの生徒数は減少しており、チームスポーツは単独校での参加が難しい競技も多く、合同チームで大会に参加している。

・地域移行の取組の現状

現在、3つの部活動で地域移行を行っている。本事業を活用した移行が2部、独自で移行している部活動が1部である。本事業を活用し移行した安芸高田HCは、地域や生徒、保護者等地域移行への評価は高い。今後、地域移行のさらなる拡大が必要である。

・地域移行を進める上での課題

課題は大きく3点ある。地域スポーツクラブの受け皿の問題、指導者の問題、活動場所の問題である。どの問題も中山間地における少子高齢化、過疎化による課題である。

地域移行関連の取組、成果

・本市の地域移行の特色としては、先行実施校を決定し、実行していることである。先行実施校では地域クラブ活動がスムーズに行われており、今後モデルとして拡大させる予定である。

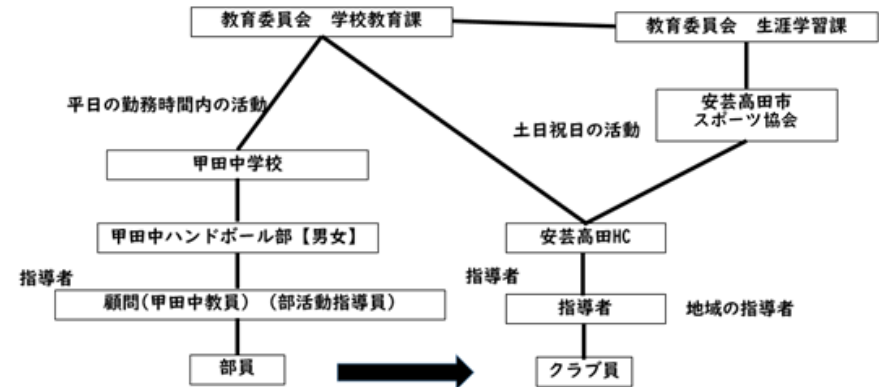
・独自に地域移行を目指している地域クラブチーム関係者と連携することができた。

・地域のつながりが深い市であることを活かし、関係者からつながりを作り、意見交換を実施した。それらを受けて、地域移行協議会の設置準備検討会にて、協議会設置に向けた検討を進めている。令和7年度に開催予定である。

主な地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	6校	全生徒数	590人
域内の部活動数	21部	実施した地域クラブ数	1クラブ
運営団体	総合型地域スポーツクラブ		
主な種目	ハンドボール		
指導者数	2人	運営スタッフ数	2人
活動回数	15回/月	参加生徒実数	3年：5人 2年：12人 1年：9人
参加会費	36,000円/年	主な活動場所	甲田中学校

運営体制図



自治体の課題、現状

本町には、町内に小学校5校、中学校2校の計7校の小中学校があり、令和6年5月1日現在における児童生徒数は4,475名（小学校3,251名、中学校1,224名）となっている。喫緊で単独によりチームを編成できないといった状況はない。令和5年度から部活動指導員及び総括アドバイザーを配置し、令和6年度からは両中学校の陸上部の休日練習を地域スポーツクラブへの移行するモデル事業を実施している。今後、国の動向や生徒、教職員、保護者、地域の方々、各種団体等の意向等を踏まえ、本町における学校部活動の在り方について検討する必要がある。

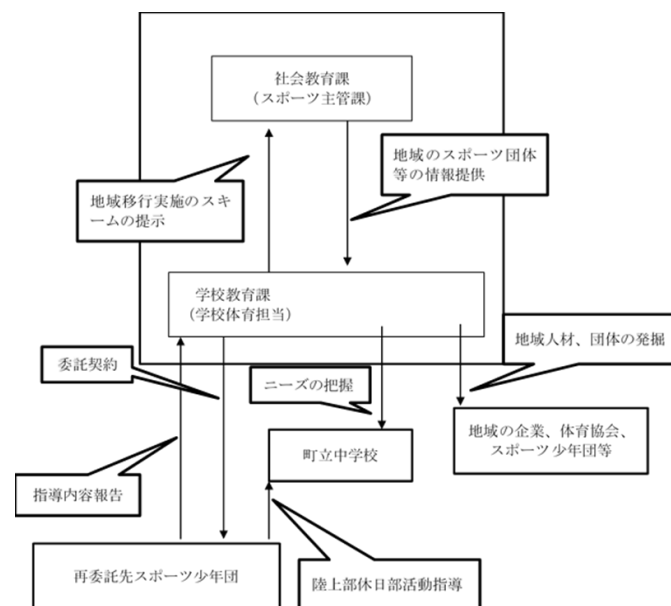
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	1,224人
域内の部活動数	37部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	4人	全体の運営スタッフ数	6人
主な運営団体	スポーツ少年団		
主な種目	陸上競技		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：18人/クラブ 2年：11人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	町内中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・歴史や実績のあるスポーツクラブにおけるモデル事業の実施
モデル事業を実施しているスポーツクラブは、地域に根付いた活動を継続して実践しており、学校教育に係る深い理解もある団体である。また、当該スポーツクラブには、部活動指導員を兼任している者もいるなど、平日の活動と休日の活動とのつながりをもつことができた。
- ・計画的な指導者養成研修会の実施を通じた指導者の発掘・育成
県主催の指導者養成研修会を町内中学校において4回実施し、様々な指導者が参加することで、新たな指導者等の発掘・育成を図った。

運営体制図



自治体の課題、現状

令和5年10月から休日の陸上部において地域移行を地元の地域スポーツクラブ（織田幹雄スポーツクラブ）で開始した。

開始にあたっては、町内の公立中学校2校の陸上部と調整し、地域スポーツクラブに参加する地域移行又は部活動の参加を選択性にして募集した。

結果、1校の陸上部の一部しか参加者がおらず、令和5年度は10人、令和6年度は7人の参加のみであった。

なお、地域連携については、令和6年度から開始し、初年度は町内の公立中学校2校で運動部及び文化部の6部活動で実施している。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	750人
域内の部活動数	20部（運動部）	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	海田町文化スポーツ協会（総合型地域スポーツクラブ）		
主な種目	陸上競技		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：2人/クラブ 2年：5人/クラブ 1年：0人/クラブ
参加会費	11,000円（1・2年生） 5,000円（3年生） 500円（練習コース）	主な活動場所	中国電力坂スポーツ施設（陸上競技場）

地域移行関連の取組、成果

地域移行の参加者が少ない中で、地域連携については、公立中学校2校で運動部及び文化部の6部活動で実施できた。

令和8年度以降の部活動の在り方を検討するため、令和6年8月に「海田町公立中学校部活動在り方検討部会」を設置し、関係者が部活動の在り方を検討する体制を整えることができた。

運営体制図

